

**〔優良活動部門〕**

**鳴沢農産物加工 樹型の里**

所在地 南都留郡鳴沢村 8 5 3 1-2  
 代表者 代表 小林 悦子  
 構成員 11名

**(地域の伝統料理や伝統作物、伝統文化を活用した地産地消の活動)**

平成8年、道の駅なるさわでの加工品の販売を目的として、先進地視察や加工品開発のための研修を実施。地域の農産物に付加価値を付けて販売したいとの思いから平成9年に前身となる「鳴沢村農協加工部会」として発足した。地元で古くから食されてきた「鳴沢菜」を積極的に活用した加工品の開発を手がけ、製菓、惣菜、弁当などを製造し、主に道の駅なるさわや地域の各種イベントでの販売をしてきた。鳴沢菜の加工に際しては、収穫後すぐに一次加工を行ったうえで冷凍保存することで、周年にわたって加工・販売を可能とするなど、創意工夫が見られる。新商品の開発にも意欲的で、平成25年には、県の事業を活用し新しい加工品を開発、鳴沢菜を使った商品の種類は増加している。

**(地域の直売所等における地域農林水産物の利用促進活動)**

加工品は、主に村の振興の中核施設である道の駅なるさわにて販売している。おやきは、鳴沢菜を始め、地元特産のキャベツが入った野菜ミックス、地元産のかぼちゃなど5種を揃えている。専用のおやきコーナーにおいて消費者との会話を交えながら鉄板で香ばしく焼かれた熱々のおやきは、道の駅の名物といっても過言ではないほどで、多くのリピーターが付く人気商品となっている。特徴的な平たい形は、鳴沢で古くから食べられていた焼きもちの形を踏襲しており、熱がとおりやすく食べやすいのが特徴である。メンバーの熟練の技が生み出す形となっている。また、自前のホームページでは、活動状況を掲載するほか、各商品について細かく紹介し、ECサイトも併設され、リピーターをはじめとした消費者が購入しやすい環境が整備されている。



(活気あふれる加工場)



(平たい形が特徴のおやき)

活動経緯	推薦理由 (鳴沢村)
平成9年 前身となる鳴沢村農協加工部会発足 平成13年 名称変更 平成25年 県事業を活用し鳴沢菜を活用した加工品を開発 平成27年 加工施設を新設 平成28年 鳴沢農産物加工 樹型の里として農協より独立	「鳴沢農産物加工 樹型の里」は、地元農産物及び、鳴沢村の特産である鳴沢菜を積極的に活用して多くの加工品を開発・製造しており、加工品を通して地元農産物の消費拡大や特産品開発に大きく貢献している。鳴沢菜の加工品については周年供給が可能な製造体制を整えている他、現在でも積極的に新商品の開発に取り組んでいる。 また、製造された商品の多くは「道の駅なるさわ」で販売され、村内のイベントにもかかさず出店するなど、設立以来20年以上地産地消の取組に尽力し、地域を代表する農産物加工グループとなっている。 以上により、当該団体は他の生産者・団体の模範となり、表彰基準を満たすと考えられるため、推薦するものである。